

# 29年6月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 6月1日～ 29年6月10日

## 2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
6月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/6月	7月	8月
入荷動向	国産材製材品	8.3	0.0	△ 8.3
	外材製材品	0.0	0.0	△ 8.3
	その他	0.0	10.0	△ 10.0
販売動向	国産材製材品	△ 16.7	△ 20.0	△ 20.0
	外材製材品	△ 25.0	△ 33.3	△ 33.3
	その他	△ 30.0	△ 20.0	△ 30.0
在庫動向	国産材製材品	8.3	8.3	△ 8.3
	外材製材品	8.3	8.3	△ 8.3
	その他	0.0	0.0	△ 10.0

・国産材製材品の入荷動向は、6月の増加が7月は横ばい、8月は減少に。外材製材品は6月、7月の横ばいが8月は増加に。その他は6月の横ばいが7月は増加、8月は減少に。

・販売動向は、国産材製品、外材製品、その他とも3カ月連続で減少。

・国産材及び外材製材品の在庫動向は、6月、7月の増加が8月は減少に。

### (2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		29/6月	7月	8月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	△ 8.3	0.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	△ 8.3	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	0.0	0.0	0.0
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	10.0	10.0
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	10.0	10.0	10.0
	土台角 12×4	△ 10.0	0.0	0.0
	通し柱 12×6	12.5	12.5	12.5
カマツ土台角10.5×4	—	—	—	
米マツ平角	10.0	20.0	20.0	
米マツ割物	25.0	25.0	33.3	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	△ 10.0	0.0	0.0	

・スギの価格動向は、総じて保合いで推移。

・ヒノキの価格動向は、柱角KD10.5×3、土台角10.5×3及び通し柱12×6は強含み。柱角KD12×3、土台角12×4は保合いで推移。

・米マツ平角及び割物は強含み。北洋エゾマツタルキ、北洋アカマツタルキは総じて保合いで推移。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・入荷は国産材、外材とも順調。販売は6月に記念市を開催したことから多少増加。在庫は国産材、外材とも横ばい（関東）。
- ・入荷は減少している。地場大工、工務店向けの荷動きが低調なためと思われる。販売は低調。特に外材製品の販売量が落ち込んでいる、在庫は、入荷が減少し、販売が落ち込んでいるため、横ばいからやや減少の間にある（中部）。
- ・入荷、販売、在庫動向は、夏場に向け入荷量が減少も、売れ行き相場に変化なし（中部）。
- ・プレカット工場以外は、仕事量の確保が出来ていない。このため、余剰の木材製品が市場に集まっている（近畿）。

(価格動向)

・スギ柱角（KD10.5cm）60,000円/m<sup>3</sup>、（KD12.0cm）60,000円/m<sup>3</sup>、スギ桁角（東北材グリーンラフ）40,000円/m<sup>3</sup>、母屋角（東北材二等）30,000円/m<sup>3</sup>、スギタルキ（東北材）45,000円/m<sup>3</sup>、スギ間柱（KD）60,000円/m<sup>3</sup>、スギ加工板（グリーン材）東2,800円、（KD）東4,800円、スギヌキ（東北材）40,000円/束、秋田材50,000円/束 スギ平割（プレーナー）45,000円/m<sup>3</sup>、同（ラフ）43,000/m<sup>3</sup>、ヒノキ柱角（KD）・土台角10.5cm、12.5cm 80,000円/m<sup>3</sup>、米マツ平角 KD 65,000円/m<sup>3</sup>、米マツ割物AD 65,000円/m<sup>3</sup>、北洋アカマツタルキ（アッセンブル単価）（S）70,000円/m<sup>3</sup>、（P）60,000円/m<sup>3</sup>、（バンドル単価）（S）67,000円/m<sup>3</sup>、（P）57,000円/m<sup>3</sup>（関東）。

- ・スギ柱角は販売は悪いが、価格は現状維持。仕入れコストとの兼ね合いで、価格下落も難しい。スギ母屋角、タルキ、スギ間柱、スギ加工板、スギヌキ、スギ平割の価格は現状維持。販売価格の維持も難しい。ヒノキ柱角・土台角は、外材製品の不足から北陸地域でのヒノキを使用する事例が増えてきた。現状での価格は横ばいだが、短期的（秋以降）には上昇する可能性もある。米マツ平角及び割物は、品不足で単価は上昇している。北洋エゾマツタルキ、北洋アカマツタルキは横ばい（中部）。
- ・ヒノキ製品の入荷量減少により、相場上昇を期待するが、需要者がどうか（中部）。
- ・スギKD材の需要が高まっている。それに伴い、県内での単価交渉に変動が起こりそうだ（九州）。